

# 2-8 下水汚泥と牛ふん混合堆肥をペレット化（株式会社アサギリ）

下水汚泥	牛ふん	食品残渣
ペレット	県内	広域流通

○ 下水汚泥、工業汚泥、牛ふん等を原料とした汚泥発酵肥料「アサギリMIXペレット」を製造し、有機物の投入による土づくり効果に加え、ペレット化による機械散布と茶栽培での肥料費低減を実現。

## ■ 国内資源の種類 ■ 肥料の種類・肥料名称

- 牛ふん
  - 下水汚泥
  - 食品汚泥
  - 食品残渣
  - 工業汚泥
  - 鶏ふん
- 汚泥肥料
  - アサギリMIX
  - アサギリMIX ペレット

## ■ 取組の経緯・内容・成果（見込み）

**取組の経緯**

- 平成12年から下水汚泥等を活用し汚泥肥料を製造。行政から地域の牛ふん処理の依頼を受け、牛ふん含有量50%の「アサギリMIX」を製造開始。さらに、耕種農家の「散布しやすい商品」の要望から「アサギリMIXペレット」を開発。

**取組の内容**

- 酪農家、汚泥を管轄する行政、肥料製造を行う（株）アサギリが連携し、地域で発生する有機質資源を有効活用して肥料化し、JA組合員等が地域内で利用することで炭素循環のシステムが図られた。
- 飼料作物（リードカナリグラス）の栽培実証において牛ふん堆肥と比べ、25%以上の収量増（飼料代として約1カ月分のコストカットが可能）との調査データが得られた。
- 広域流通を目指して富士宮市と東京農業大学との連携協定を機に、大学と繋がりのある販売先とのマッチングを行ったことで、JA清水、JA御殿場へと販売拡大。

**成果（見込み）**

- ペレット化により、従来散布困難な茶畑にも乗用肥料散布機での施肥が可能となった。肥料コストも14,982円/10aから11,820円/10aに低減。さらに、化学肥料の使用量も、従来の高度化成肥料（13.2：3.6：2.4）120kg/10aから、アサギリMIXペレットと尿素（N46）24kg/10aとなり、リン・カリの化学肥料の使用量をゼロにすることが可能となった。

## ■ 保証成分（%）・特徴等

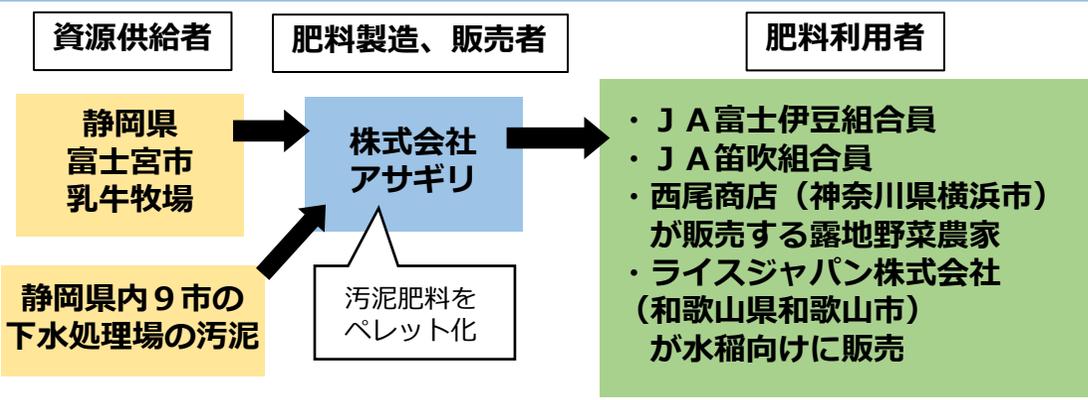
N	P	K
1.23	2.00	1.00

アサギリMIXの特徴として、微量ミネラルが豊富で熱乾燥しないペレット形成をしている為、有用微生物や放線菌群が豊富に含有。

## ■ 作物

水稲、果樹、造園、葉物、根菜類、芝等

## ■ 主たる取組主体と肥料利用までの流れ



## ■ 今後の課題・取組

- 【取組】**
- 菌体りん酸肥料登録を目指し、化成肥料との配合製品の製造。
  - 牛ふん堆肥の散布が難しい地域、品目に対して機械散布実証実験。
- 【課題】**
- 利用者への周知活動。
  - 導入・散布面積の増加。
  - 熱乾燥しない為、製品含水率安定化。

